



麻布幼稚園は今年度 開園90周年

麻布幼稚園だより

令和6年6月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

水無月となりました。梅雨の時期を迎えます。晴れた日には、砂遊びや水を使った遊び、園内の草木や虫などの自然に関わる遊びを、雨の日には、室内の遊び、体を動かす遊びの工夫をしていきます。大人にはちょっと厄介なこともある梅雨ですが、この時期ならではの天候や自然物に興味や関心をもてるよう楽しんでいきたいと思えます。

さて、4月から始まった1学期も半分が過ぎました。子供たちは、幼稚園に来ると自分のしたい遊びを見つけて、たっぴりと遊んでいます。幼稚園の生活に必要なことも、各学年に合わせて日々身に付けてきています。幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、その後の学校教育の生活や学習の基礎が培われます。幼児期の教育は、遊びや生活を通して行われます。遊びや生活の中には、学びの芽、自立の芽がたくさんあります。

自立の芽とはどのようなことでしょうか。一つは習慣です。幼児期から身に付けさせたい習慣には、「相手の顔を見て挨拶や返事ができること」「靴が揃えられること」「よい姿勢でいられること」といったことがあります。大人にしてみれば当たり前のことではありますが、「相手の顔を見て挨拶や返事」ができるということは、挨拶や返事をする相手に向き合い、相手を大切にすることにつながります。「靴（物）」が揃えられることは、心を整えること、自分の行動に責任をもつことにつながります。「よい姿勢（立腰）」でいることは、意欲をもつこと、考え行動することにつながります。

これらの習慣は、言うてすぐに身に付くものではありませんし、無理やりさせて身に付くものでもありません。周りの大人がする姿を見せること、している姿を認め、心地よさを味わうことを根気よく積み重ねることで習慣となっていくます。

また、自分のことは自分でする構えをもつということです。「自分の荷物は自分で持つ」「持ち物の始末や身支度は自分でする」といったことがあります。「自分でする」という構えをもち取り組むことは、自立心につながります

まだまだ大人の手を借りながら行うことが多い幼児期ですが、「自分で！」という意欲が旺盛な時期でもあります。身近な大人が、幼児の自分でしたいという気持ちを捉え、自分の手でできた満足感や諦めずにやり遂げた達成感に共感することは、幼児の自立心や探求心、次への意欲につながります。成長し続けるお子さんの姿から、今、育ちつつあることは何か、大人がやってあげ過ぎていることはないか、自分の手であることを見守ってあげられているか、と振り返ることが必要です。

日々成長をする子供たちです。ご家庭と幼稚園でお子さんの姿を共有しながら、成長を支えていきましょう。